

第1回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録

日時：令和6年10月7日（火） 14時00分～16時00分

場所：リサイクルプラザ 大会議室

出席者：堂本座長、朝霞環境市民会議 松永様、朝霞基地跡の自然を守る会 大野様、朝霞湿性植物保護の会 田ノ岡様、黒目川に親しむ会 藤井様、埼玉県生態系保護協会朝霞支部 富永様、わくわく新河岸川みどりの会 山本様、奥田課長

欠席：秋ヶ瀬野鳥クラブ 田中様

【資料1 概要の説明】

(アンケートについて)

- ・どのようなアンケートか。回収率はどれくらいか。(委員)
- WEBでの回答も取り入れているので、3割以上は回収したい。(事務局)

(緑被率や緑化面積について)

- ・農地が減少しているが、法律の問題で農地を維持できない人もいる。法律を変えるのは難しいが、行政で支援してほしい。生物多様性にも大事である。(委員)
- 緑化推進会議でも重要なテーマとなっている。地権者の方も「農地の担い手がない」、「営農が厳しい」と話している。(事務局)
- ・生き物のねぐらを創ることと人のねぐらを創ることはどちらも大事であるが、理解してもらえない。(委員)
- 緑化推進会議では、農業に関する話が、生き物より意見が多い。(事務局)
- 農地は生き物とも関係がある。(委員)
- 農地＝自然と言われても、効率性、生産性を考えると難しい。みどりの基本計画の検討の中で、農業の方との合意形成が課題である。新しい担い手が必要であり、新しい担い手が生まれるような仕組みが必要である。(会長)
- ・学校の屋上緑地は含んでいるのか。(委員)
- 航空写真を元に緑被率を算出しているので、投影されていれば緑地に含まれている。(事務局)

(基地跡地について)

- ・国有地である朝霞の森は入っているか。(委員)
- 入っている。P16 緑被区分の「公共的施設の樹林樹木」や「公共的施設の草地」に含まれている。みどりの基本計画を作成するにあたり、基地跡地は重要な部分と認識している。(事務局)
- ・P9の計画スケジュールにて、今年の10月から基地跡地、シンボルロードについても1年かけて検討していくことになる。第2期整備工事が2025年には完成予定だったが、財務省との調整で止まっている。市民利用の検討はどのように考えているか。(委員)
- シンボルロードの管理の方向性、利活用と管理は、市民と会話しながら進めている。昨年から市と包括連携協定を結んでいる公益財団法人都市緑化機構の先生方と協力し、樹木の管理についても検討している。朝霞の森は、無償で市が管理委託している。基地跡地も同じような提案をしているが、1/3は市に買って欲しいと言われている。将来的に都市公園として計画しているが、市の全体としての資金の計画(10年)を明確に提示しないと、基地の利用(一部を借りる、管理委託する)を認めてもらうことは難しい状況である。昔、基地跡地の見学会を実施していたので、その可能性も検討していきたいと考えている。(事務局)
- 基地跡地は、桜の園といわれていて、1000本くらいある。山桜が多いが、枯れてきている。(原因は調査しないとわからない) 再び調査して落葉の森を守っていきたい。市と市民と一緒に調査して対策を考えていくことが必要だと考えている。(委員)
- みどりの基本計画の策定に併せて基地跡地への立ち入りについて検討したい。(事務局)

- ・基地跡地は、市の真ん中にある重要な土地である。「みどりの基本計画」の中で、基地の自然をどうするか、資金計画をどうするかをはっきりと打ち出せば良いのではないか。(座長)
 - 買収金額は、160 億円くらいである。分割払いも可能と聞いている。基金もある。(事務局)
 - 環境税やクラウドファンディング、ふるさと納税はどうか。(委員)
 - 様々な方策について検討する必要があるものと考えている。(事務局)
- ・市民は、使用できればよい。市が買うことを市民は望んでいない。(委員)
 - もちろん朝霞市として何か努力をしていくことは必要である。(事務局)
- ・例えば国営公園にするとか、都市緑化機構の方でアイデアを出してもらうのはどうか。(座長)
 - 次回の緑化推進会議や庁内会議で皆さんのご意見を伝えたいと思う。みどり公園課だけの話でないため、他の部署と共有する。(事務局)
- ・前に基地跡地の生態系の調査を行ったが、生態系も変化している。生態系の変化を調べる必要がある。そのために市民が調査できるようにしてほしい。(委員)
 - 生態系の調査にしてもお金がかかる。市に財政負担をかけず、調査をすることも考えてほしい。(事務局)
 - 朝霞の鳥や虫の専門家等に協力をお願いしてはどうか。(委員)
 - 良いと思う。(事務局)
- ・都市公園の中に都市林という種別がある。都市林という名前を残して欲しい。(委員)
 - 今、環境省が自然共生サイトを募集している。朝霞として、基地を自然共生サイトにしたいと言え、審査のために調査が必要となる。国が進めている自然共生サイトのための調査であれば、国の協力を得られるのではないか。申請には、具体的に調査や管理の検討は必要だが、申請はできる。(座長)
 - 本日いただいたご意見について、まずは庁内で共有するとともに、みどりの基本計画の検討には、基地跡地の生態系やみどりの現状評価の観点は重要なため基地跡地に立ち入りできるよう調整してみたい。(事務局)

【資料 2 朝霞市におけるグリーンインフラマップの解析】

- ・朝霞の森の水涵養と市役所の涵養の役割や影響はどう違うか。黒目川は水量が多いが、越戸川の水量は少ない、それはなぜか。具体的に理由がわかると有意義である。生物調査は難しい。生き物マップも作成しているが、朝霞は県内でも多様な環境があるが規模が極端に小さい。どう評価するのか。どれくらい生物情報を提供できるのかわからない中で、どれくらいのボリュームをイメージされているのか聞きたい。(委員)
 - 大きなメッシュでの位置情報では解析できないため、正確な位置情報を用いたい。皆さんの調査データで、使える情報があるかお聞きしたい。また、このような評価方法が適切かどうか、堂本先生にもお聞きしたい。(事務局)
 - 朝霞は市民団体がデータを持っているが、全てではない。限りがあり抜けがある。日常的に活動しているところは、活動する中で動植物の記録はあるが、日常的に活動していないところのデータは、抜けていく。どう補填するか。一回場所を決めて調査して、同じような斜面林には同じ生物がいる、ということにするといいと思う。(座長)
 - 同じようなアプローチを行った解析はある(鎌倉市の事例)。主要な緑地のみ調査を行い、市全体のビオトープマップを作成した。回帰式を用いて、生物の多様度を算出した。このようなアプローチも考えられる。(事務局)
- ・基地跡地は、10 年近く入っていない。かつてのデータと現状を比較しないと評価できない。現状の調査が必要である。その際に自然環境団体の人にご協力いただく。水域、湿地環境あれば、朝霞湿性植物保護の会が関わっている調整池があるが、朝霞市の中でベストな状態である。同じような環境がどこにあるのか、それが見えてくればよい。(座長)
 - 朝霞調節地と河川沿いがベストである。どう活かしていくかが大事である。アンケートから漏れている場所に自然が豊富な場所があり、環境的に重要な場所と考える。(委員)

- ・朝霞の場合、大学の教育機関で行っている調査はないか。(座長)
 - 昨年、東洋大学の学生達が、黒目川の流れや人の集まりを分析して発表していた。(委員)
 - 黒目川は、議論になったので、基礎的なデータはあるかもしれない。(座長)
 - 学会で発表していると検索しやすいが、卒論だと調べるのが難しい。(事務局)
- ・この調査に協力をする場合、どのようなことをしたら良いか。(委員)
 - 朝霞の指標種を決めるのが最初である。生き物情報は、今年集まったデータで一度分析してみる。今持っている知見やノウハウで可能な範囲で実施する。紙の地図に丸を付けて、できるだけピンポイントで書き込んで欲しい。(事務局)
 - それぞれができる範囲で一人一人が調査をし、10年間続けると、変化もわかる。(委員)
 - 指標の分類に番号をつけて、それを地図に落としていけばよいと思う。(委員)
- ・それぞれ指標の箱に具体的な種を入れるということを考えている。具体的な種を地図にプロットしていく。朝霞の環境での貴重種を教えていただきたい。過去の調査データがあれば、それを活用させていただく。(事務局)
 - 魚は入っていないが、みどりの基本計画には入れないのか。朝霞にとって黒目川は重要なので、魚も重要だと思う。(委員)
 - 魚も入れる。(事務局)
- ・朝霞の森の3haの広場では、観察会を行っている。300人くらい子どもたちが参加し、毎年40~50種類のデータが蓄積され、5~6年続けている。そのデータは提供できる。(委員)
 - GISで解析するので、できるだけ精緻な位置データがあると良いと考えている。(事務局)
- ・解析の考え方や評価の仕方は皆理解できる。しかし、実際に市民団体の方が、どれくらい協力できるかをしっかり考えていただきたい。どれくらいのもので提供できるか、すぐに答えを出すことは難しいと思う。(座長)
 - 難しいことをお願いしている。生き物台帳はいただいているが、同じ斜面林でも上と下でも異なるので、細かく位置情報が欲しいと考えている。(事務局)
- ・城山公園など緑地単位くらいの話しかできないと思う。(委員)
- ・黒目川も川岸に鳥がたくさん見られるが、上流と下流で種類が違う。(委員)
- ・もし生き物データの積み上げが難しい場合は、植生図ベースの評価を行うことは可能である。日本は植生図が発展している。精緻な植生図に微地形を格納し、その多様性から多様度を算出する、という方法である。(事務局)
- ・記録を残し、鳥の減少の原因等を把握したい。簡単であれば、協力したい。(委員)
 - 次回は時間的余裕を見て、資料を送付させていただく。(事務局)

【その他】

- ・第2回生物多様性市民懇談会は、12月中に開催したい。資料は事前に送付する。その前に何かご意見があれば、ご連絡いただきたい。(事務局)
- ・これまでの10年間のみどりの基本計画の検証についても、その過程やどう評価するのかを知りたい。また、それについて意見を言う場が欲しい。(委員)
 - 今まで基本計画の検証は行い、緑化推進会議や庁内委員会で報告する予定である。ホームページでの公表も予定している。今後ワークショップを開くことも検討しているが、事務局にご意見を言っていただくことはいつでも可能である。(事務局)
- ・みどりの維持管理は大変であるので、このような会議に企業の方に来ていただき、協力していただいた方がよいのではないかと。そのような仕掛けが必要ではないか。(座長)
 - みどりのまちづくり基金はあるが、市が土地を購入することは難しい。企業に協力してもらわないと保全は難しい。先進的な取組をしている企業を教えたい。(事務局)
 - 市民団体の考え方等も理解した上で、企業にも協力をお願いしたい。みどりの基本計画に参加した企業ということで、資金を出してもらおうというような仕組みが欲しい。(座長)

→アドバイザー等の立場で関わってもらうことは可能かもしれない。企業の方とも話をしてみる。(事務局)